

<全体分析>

試験時間 120分

解答形式

記述式(数値, 構造式, 文字式)

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)難易(易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化)

大問数は前年と同様15題で, 正誤選択は1題減少(8題→7題)し, 計算問題は1題増加(6題→7題)した。設問の総数は1問増加(18問→19問)したが, 全体の分量は同程度であった。一方, 前年に比べて取り組みやすい設問が減少したため, やや難化した。

出題の特徴や昨年との変更点

正解が1つまたは2つの正誤問題が出題される。解答形式はほとんどが数値記述であるが, 一部に文字式や構造式を記述する設問も含まれる。今年はお題されなかったが, 解答の有効数字の桁数を問題文で与えられた数値から判断する問題が出題されることもある。

例年, 出題分野のウェイトは理論>有機>無機の順である。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第I問					
1	正誤選択	無機	化学基礎・化学	単体が常温・常圧で気体である元素の単体と化合物	やや易
2	正誤選択	無機	化学基礎・化学	金属元素の性質と反応	やや易
3	計算	理論	化学	水溶液の電気分解	標準
4	計算	理論	化学	酢酸水溶液および酢酸ナトリウム水溶液のpH	標準
5	計算	理論	化学	面心立方格子と六方最密構造	標準
第II問					
6	正誤選択	理論	化学基礎・化学	物質の構成, 気体, 溶解度積	やや易
7	正誤選択	理論	化学	反応速度	やや易
8	計算	理論	化学	反応熱と生成熱	やや易
9	計算	理論	化学	溶液の浸透圧と凝固点降下	やや難
10	計算	理論	化学	混合気体の圧力と気液平衡	標準
第III問					
11	正誤選択	有機	化学	分子式 $C_5H_{12}O$ の構造異性体	標準
12	正誤選択	有機	化学	分子式 $C_{30}H_{32}O_6$ のトリエステルおよびその加水分解生成物の構造	やや難
13	計算	有機	化学	単糖類・二糖類の混合物	標準
14	正誤選択	有機	化学	タンパク質	やや易
15	記述	有機	化学	分子式 $C_{15}H_{14}O_3$ の化合物の構造決定	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で, 当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

全分野にわたって, 標準的な練習問題を十分に学習すること。標準的な問題を確実に得点することが重要であり, いたずらに難問の演習をしてもあまり意味がない。

過去問の研究を怠らず, 解答形式などにも慣れておくこと。